

## 県立海洋高等学校自己評価表

目指す学校像	教育基本法及び本県教育の目標の示すところにより、豊かな人間性と人格の完成を目指し、社会の発展に貢献し得る、心身ともに健全な海洋技術者を育成する。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>海洋高校生として身につけるべき知識と技能の確実な定着を期して、授業時間の確保と教え方に工夫を図った。一方で授業に臨む姿勢に更なる積極性が必要な生徒も存在している。</p> <p>地域に信頼され、愛される地域産業の担い手の育成を目指し、基本的な生活習慣の確立に向けた指導及び地域関連企業と連携した教育を推進した。挨拶や身だしなみは概ね良好であり、就職する生徒の約5割が水産・海洋関連産業へ就く状況である。これを更に好転させるために欠席・遅刻者の減少や情報モラルの向上、進路実現に向けたなお一層の動機付けを行う必要がある。</p> <p>今年度竣工した第5代目鹿島丸を用い、従来に増して充実した実習船による教育を推進することが求められる。</p>	1 教育の質の保証	(1) 生徒一人ひとりの成長を願い、日常における生徒理解と生徒観察に努める。 (2) 生徒の学校生活への充実度や達成感を高める。 (3) 生徒の自立を促す「学び」の指導の充実を図る。(自立心、自己指導能力の育成) (4) 生徒全員の「良さ」を伸ばして、進級及び卒業へと導く。 (5) いじめや体罰のない「安心・安全な学校」を目指す。 (6) 全職員が品格を保って勤務する。(コンプライアンスの遵守・学校の信頼回復)	A
	2 地域に信頼され、愛される地域産業の担い手の育成	(1) 進路先の新規開拓(企業への就職及び大学への進学等)。 (2) 学期ごとの皆勤者及び精勤者を増やす。(欠席・遅刻を減らす手立て)。 (3) 5分前行動、挨拶、身だしなみの指導・支援の充実。 (4) 企業実習、みんプロ、地域イベントへの参加の推進(地域貢献活動) (5) 学校ホームページや学校説明会等の広報活動の改善・充実。 (6) 全学科の志願者数の確保及び増加。 (7) 地域連携の推進。(那珂湊漁港・イオンリテール等)	A
	3 生徒一人ひとりの学習指導の充実	(1) 授業時間の確保と授業の改善。(目標の明確化・評価の改善・言語活動の充実) (2) 生徒の学習意欲の向上。(各種資格検定への挑戦、体験学習等の学習機会の確保) (3) 校内環境の整備。(掲示物・展示物の改善、資料室の設置等) (4) 職員間の生徒の情報共有の促進(各科・各学年・各部・各教科・各部活動等) (5) 「道徳プラス」授業実践及び主権者教育への対応	B
	4 開催イベント等の成功	(1) 鹿島丸竣工式の成功。(5月) (2) 全国水産・海洋高等学校ダイビングコンテストの成功。(8月)。 (3) 全国水産・海洋高等学校生徒研究発表会の成功。(12月) (4) 実習棟の建設計画。(7月までにアウトラインを提出) (5) 新教育課程の評価・検証(全学科)及び入試等の内規の見直し。	A

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導	海洋技術者に必要な基本的技能や知識の定着を図り、教育の質を保証する。	水産・海洋に関する内容を各教科の指導に取り入れることで生徒が興味・関心を抱き、充実度や達成感を高められるようにする。	A	アクティブラーニングの視点を取り入れた授業を一層推進する。
		生徒自らが課題の解決に向け取り組む授業を展開し自立を促す「学び」の指導の充実を図る。	B	
国語	生徒の実態や進路に応じた授業を行い、海洋高校生として必要な基礎的学力を養成する。	教科書や副教材を使用し、漢字・語彙力を育成する。	A	1,2年生の早い時期から進路を意識して、授業内容を選んでいくことが必要である。
		作文やスピーチ指導を通して、表現力を高める。	B	
		様々な文章に触れ、読解力を深める。	A	
		進路を意識した授業内容を実践する。	B	
地理・歴史	発言の場を多く設定し、個々の考えやまとめた内容を話せるようにする。日本の文化を愛し、世界における日本の伝統・文化に関心を深め内容に触れる。	TTを取り入れきめ細かい指導を行う。	B	水産業と関連づけた内容を一層取り入れていくことが必要と感じられたので、実施していきたい。
		一人一人の学習意欲を向上させ、発言の機会を増やし、言語活動を充実した授業を行う。	B	
		小テストなどを定期的に行い、知識の定着を図る。	B	
公民	調べ学習を取り入れ、グループ討論・プレゼンの場を設定し、人前での発言やまとめる力・話を聞く態度を養う。 政治に関心を持たせ、選挙に直接関わる国民としての心構えを知る。	自ら取り組んだ課題について纏まった一つのものを仕上げ、生徒に達成感・成就感を持たせる。	B	発言する場をこれまでよりも多く設定し、コミュニケーション能力を高めていけるように、会話をし、自ら発言し、意見が言えるようにする。
		身近な問題・話題に着目し、生徒の意見を多く聞く。	A	
		模擬選挙の体験や国会中継を見ることで、世の中の動きを見聞する。	C	
数学	生徒の基礎学力の向上を図り、航海算法の基礎を修得させる。 生徒に達成感を与える授業を展開する。	基礎計算能力を高めるとともに、言語活動を重視する。	A	基礎学力向上のために能力に合った分かる授業の工夫を一層推進する。
		海洋に関係する内容の指導を積極的に実施する。	B	
		「何が必要か」を正確に把握し、目標を設定する。	C	
		進路実現のために検討を重ね、幅広い内容の学習を実施する。	B	
理科	生徒の実態に応じた授業内容や教材を工夫し、水産・海洋分野との関連づけも考えていく。	生徒が理解し、興味・関心を高められる授業を工夫する。	A	科学的なものの見方の育成や言語活動を重視した授業の展開を工夫する。
		小テストなどを行い生徒の理解度を分析し、授業や評価に反映させていく。	B	
		科学的なものの見方を育てていくとともに、生徒が考えをまとめ、発表する言語活動を重視した授業を行う。	C	
保健体育	基礎体力の向上を図ることのできる資質や能力を育てる。	生涯スポーツを意識した種目を選択して生徒のニーズに応える。	B	生徒個々の体力アップを目指し、色々な種目でのスポーツランキングを取り入れていきたい。
		能力別やチームに均等などグループ編成を工夫し楽しく活動できるようにする。	B	
		スポーツランキングを取り入れ、楽しみながら基礎体力の向上を目指す。	C	
	生涯を通じてスポーツを継続していく為の基礎知識を身につけさせる。	能力に応じた簡易ルールを工夫し、誰でも楽しめるようにする。	B	
		それぞれの役割分担を明確にして責任ある行動を促す。	B	
		設備や用具の安全で適切な使用方法を指導する。	A	
	生涯を通じて自らの健康を適切に管理する能力を育てる。	内容を精選し自分と他人の健康を守るために必要な知識を重点的に学習させる。	B	
身近な問題を扱い体験的学習を充実させ実生活に活かせるようにする。		B		

別紙様式2 (高)

芸術	書道を通じ、日本の伝統文化に関心を持たせ、生活の中に役立つようにさせる。	硬筆は、レッスン帳やプリントを用い、基礎から実用書まで指導し、生活に役立つようにさせたい。	B	B	写真や映像等を使い、書への関心を高めたい。
		毛筆は、個々の能力に合わせ、基礎から創作まで指導し、書の楽しさを感じさせる。	B		
外国語	水産系高校生として知っておきたい知識の習得。 生徒の実態に応じた授業の展開。 コミュニケーション能力の育成。 外部テストの利用	近海の魚の名前や船に関する知識の習得を目的とした授業を取り入れ、定期考査へも反映させる。	C	B	英語でのパターンプラクティスの種類を増やすなど、英語で授業をすることへの対応をもっと積極的に行っていききたい。
		生徒の習熟度に合わせ、アルファベット、辞書引きから学び直しを目的とした授業を行う。	A		
		ALT との TT により実践的なコミュニケーション能力を育てる。	A		
		クラスルームイングリッシュを使い、日常から英語に慣れさせる。	B		
家庭	自分自身の自立と地域の共生を目指す。	英語検定を利用し、生徒の学習意欲を向上させる。	A	A	実習を取り入れ充実した学習にし、生活を向上させる。
		家庭や地域の生活に関心を持たせ、生活の充実・向上を図る。	B		
		実習を通して、基礎的・基本的な技術を身につけさせると同時に、衣・食・住について生きる上で必要な知識を身につけさせる。	A		
水産	専門教科に対する興味・関心・学習意欲を高める。 個々の適正に応じた専門指導を総合的に行う。	授業の進め方の工夫により、海洋技術者に求められる知識・技能の修得に向けて、学習意欲を高める。	B	A	普通教科との連携を図り、より効果的な指導方法の確立を図る。
		実践的な技術も紹介し、就業を意識した学習意欲を高める。	A		
		資格取得の奨励や、地域と連携した教育活動の展開等を通して、生徒の適正と将来を見据えた総合的な指導を実施する。	A		
校務分掌					
教務	生徒の学習意欲の向上を目指した授業の展開。 教育の質を保証できる授業の確立。	目標を明確化し、生徒が達成感を得られる授業を実施する。そのために必要な授業時間を確保すると共に、各種資格検定への挑戦を促す。	A	A	生徒一人一人が主体的な学習に取り組めるよう、学科及び教科横断的な授業研究を推進する。
		生徒の「良さ」を評価する授業を実践する。	A		
		海洋高校生に求められる知識・技術の修得に向けて各教科・科目が有機的に機能し連携する授業を展開する。	B		
保健衛生	健康に対する意識の向上と保健指導の充実	健康診断と効果的なじご指導の実施。	B	A	検診で要受診と診断された生徒の受診率が上がるよう、個別指導の充実を図る。 冬の時期の生徒保健委員会活動を活発にするため、ポスターの作成や換気の呼びかけ運動を実施する。
		各種学校行事における保健管理・指導の徹底。	A		
		生徒の実態に合わせた保健だよりの発行。	A		
		学校環境衛生検査の実施。	A		
		生徒保健委員会の活性化。	C		
		地域の関係機関・団体との効果的な連携。	B		

別紙様式2 (高)

生徒指導	基本的な生活習慣の確立 (学校を休まない、時間を守る生徒の育成)	5分前行動、学期毎の皆勤者を増やす等、欠席・遅刻等を減らす指導の工夫。	B	A	挨拶、身だしなみの重点的指導、遅刻者等に対する出席状況改善への取組により、基本的な生活習慣は定着しつつある。欠課時数過多による単位未履修の未然防止対策として次年度においても継続的に指導していきたい。他校に愛され信頼される海洋高校生としての自負を持たせ主体性の育成へと繋げていきたい。特別な配慮が必要な生徒に対する指導について、職員の共通理解、協力体制、関係機関との連携等を推進し、継続的に支援していきたい。いじめ、教育相談、コンプライアンス等の研修会を継続的に実施し、職員の資質向上を図りたい。
		生徒、保護者、教職員間の報告・連絡・相談の徹底。	A		
		生徒指導実践サポート事業による生徒指導体制の充実、情報共有の促進。	A		
		さわやかマナーアップ運動を通じた基本的な生活習慣の確立、規範意識の高揚・公共マナーの向上。	A		
		スクールカウンセラー、特別支援コーディネーターの活用。	A		
	規範意識の定着 (地域に信頼され、愛される海洋高校生の育成)	登校時の校門立哨等によるあいさつ・身だしなみ指導の徹底。	A		
		授業・集会・式典等における礼法指導の徹底、服装・頭髪等の継続的指導。	B		
		校歌斉唱、服装の正しい着用等による愛校心の醸成、帰属意識の向上。	A		
		地域や家庭と連携した下校路巡回・列車添乗指導による交通・乗車マナーの向上。	A		
		関係機関と連携した交通安全講話・SNSマナー講話等の実施。	A		
	安心・安全な学校づくり (いじめ等問題行動、体罰の防止)	家庭訪問・面談・教育相談・アンケート調査等によるいじめ等問題行動の未然防止・早期発見・早期解消	A		
		授業、HR活動等におけるSNS安全利用、情報モラル教育の徹底。	B		
		教育相談・特別支援教育・いじめ・アンガーマネジメント等職員研修の実施	A		
		日常における生徒理解・生徒観察の徹底と職員間の生徒情報共有の促進。	A		
		全職員が品格を持って勤務するコンプライアンスの遵守。	A		
渉外	PTA活動の活性化	委員会活動の充実と活性化 (参加率の増加)。	C	B	各委員会活動の参加率増加。
		広報紙等による保護者、地域住民への広報活動。	B		
特別活動	生徒会活動の自主的な運営	生徒による学校行事の主な企画、運営。	A	A	部活動の活動率は高かったが、全体的な加入率は少し減少傾向にあるので、加入率の向上が主な課題である。
		生徒会を中心として、地域イベントや企画に積極的に参加、協力。	A		
	部活動の振興	部活動の活動率の向上。	A		
		部活動の指導者の育成及び講習会への参加。	B		

別紙様式2 (高)

進路指導	地域産業の担い手育成	新学科に対応した効果的な企業実習の実施。	A	A	3年間を通じた計画的な進路指導を実施し、生徒や保護者へ十分な進路情報を提供するとともに、各学科の特性に則した進路理解を促進させる。各学科や各分掌等と協力し、進学・就職に必要な学力や面接力等の向上を目指す。
		本校の特色に則した企業求人の開拓。	A		
	就業・進学に向けた学力等の向上	各学科と協力し、就職に向けた試験対策及び面接指導の実施。	A		
		各学科と協力し、進学の受験方法に応じた指導の実施。	B		
	進路情報の提供ときめ細かな進路指導	就職先や進学先の受験情報を収集し、対応した受験対策の提案。	A		
		各学年での進路ガイダンスの実施と各クラスでの進路講話の実施。	B		
進路の手引きや進路だより、保護者説明会等での進路情報の提供。		A			
図書	蔵書の整理	蔵書のデータベース管理。	A	A	少しずつ、書庫の本を適切に配列する。内部のレイアウトを考えていくことを、利用率を高めるために行う。
		内容が古くなった図書の選別、廃棄と有効な購入図書の選定。	A		
	図書室の利用促進	開館利用時間の工夫。	B		
		図書館公報の推進。	A		
図書委員会の活性化	本の整理、蔵書登録、読書会などの作業活動。	B			
企画	地域連携を促進する。	企業実習の実施により、地域に認められる学校を目指す。	B	B	みんプロのプランをさらに調整。地域貢献と生徒がレベルアップを図る新企画でPR。地元関連企業での実習を実現。
		みんプロの実施により、生徒のスキルアップを図る。	B		
	学校PRの促進を図る。	地域イベントに積極的に参加し、交流を深める。	B		
		ホームページの充実とこまめな更新を行う。	B		
第1学年	個に応じた学習指導を充実し、基礎的な内容を身につける。	学習内容の精選を図り、生徒一人一人に則した授業を展開し、基礎学力の修得を目指す。	B	A	基礎学力の定着と共に、専門の授業・実習を通し、将来必要となる知識・技術を身につけさせる。HR活動等を通して基本的な生活習慣を確立させる。
	望ましい集団生活を通し心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。	生徒指導部との連携及びLHRや学年集会を通じて、基本的な生活習慣に対する意識の向上を図る。	B		
	家庭との連携を密にする。	全家庭対象に三者面談を実施。問題行動は直ぐに家庭連絡し学校と家庭で連携して指導する。	A		

別紙様式2 (高)

第2学年	社会に出るために必要な資質を身につけさせ、基本的な生活習慣を確立する。	休まない、遅刻をしない、あいさつの励行、言葉遣い、頭髪・服装についての学年の共通認識のもとに指導を行う。	B	B	道徳プラスの推進。 生徒の自主、自立性を育む。
		HRにおける道徳プラスを実践し、道徳的判断力や道徳的実践力を身につけさせる。	C		
	基礎学力の定着を図るとともに将来の進路を見据えた授業・実習等を実施する。	授業を通して国語力や計算力等の基礎学力を身につけさせる。	B		
		専門教科等を通して将来の授業に必要な知識・技術を身につけさせる。	A		
		企業実習を通して将来の目標を明確にし、進路への意欲を向上させる。	A		
	学校行事等への積極的な参加を促進する。	修学旅行の充実を図るため日本文化に興味を持たせ、見学地の地理や歴史等についてよく理解させる。	A		
クラスマッチや海洋祭へ積極的に参加させ、参加することの大切さや充実感を理解させる。		A			
第3学年	生徒の進路目標を明確にさせるとともに、目標の実現に向けた指導の充実を図る。	二者面談・三者面談を実施する。進路指導部や他の部署と協力し、基礎学力や面接力の向上を目指す。また、学年各クラスで協力し、統一的な進路指導を行う。	A	B	面接指導には、各科の協力があり成果があった。さらに推進したい。 遅刻をなくす、挨拶をきちんとするなどの指導が必要。
	社会人として必要なマナーを身につけさせる。	基本的な生活習慣を向上させ、社会人となる意識を持たせる指導をする。	B		
	最上級生として自覚を持たせ率先して学校行事や部活動に参加させる。	特別活動やHR活動を通して最上級生としての自覚を持たせ、学校行事や部活動に積極的に参加させる。	B		

※ 評価規準 A：十分達成できている B：達成できている。 C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない